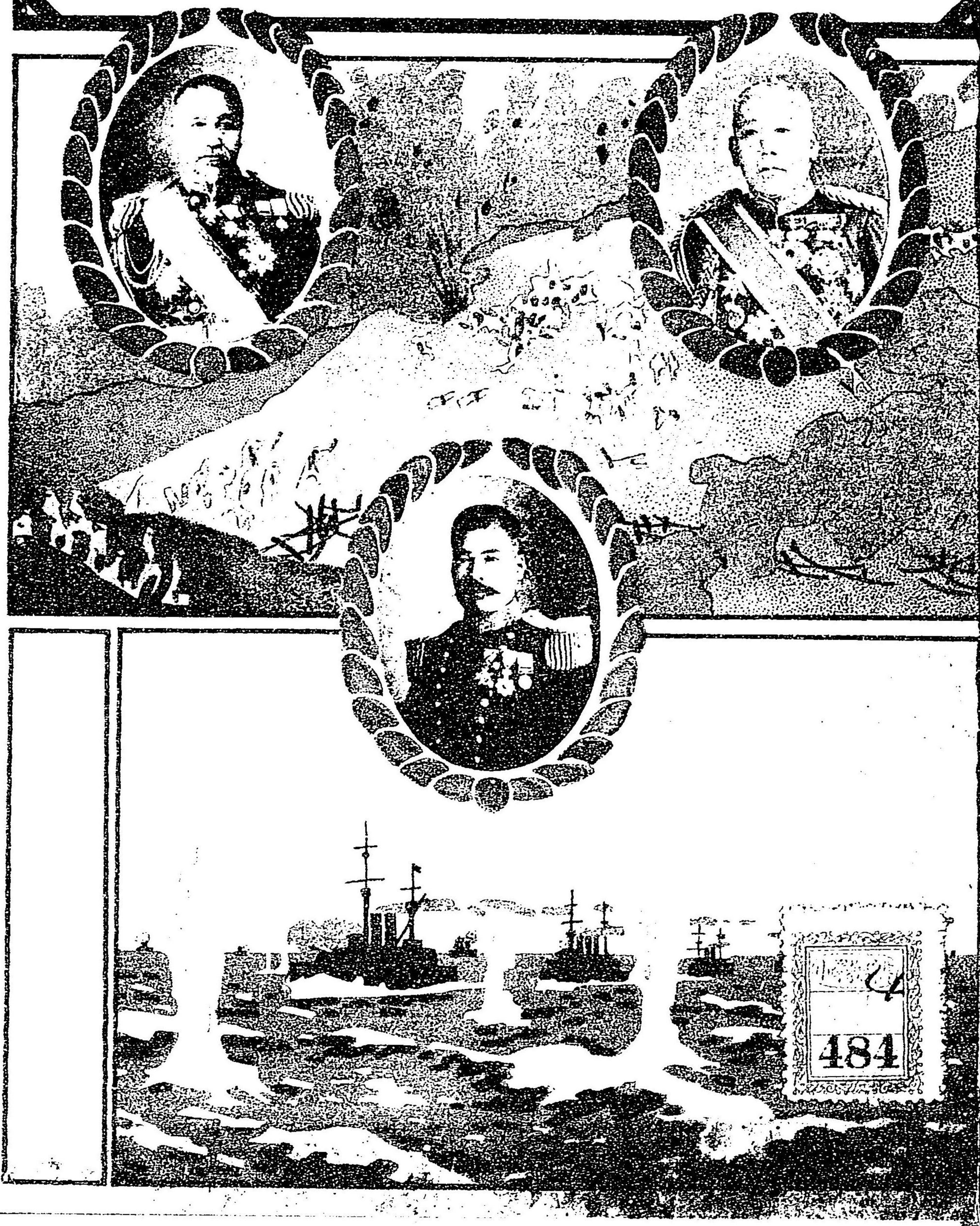


# 國語復習帖

尋常小學第五學年  
前期用下



049306-001-6

特52-73

新案國語復習帳 尋常小學第五學年前期用下，  
尋常小學第六學年前期用下

國民教育研究會／著

M44

BEL-0355



は し が き

- 一、初にある漢字表は常に讀方を反復して記憶するため、裏にある漢字の讀假名表は、これにて屢々漢字の書取をなさしむるがためなり。
- 一、この復習帳は主として家庭にて復習せしめ、其の結果を檢閲して兒童識得の如何を知るが爲めに考案したるものにして、一はこの帳面にて復習練磨をなさしめ、二はこれによりて國語の成績考査をなすを得べし。
- 一、上述の目的を達するが爲めに各卷上下二冊にこれを分ち、讀本の課順を追ふて漢字、假名遣、讀方、意義、綴方、篇の結構、修辭法及び内容概括上の諸問題を掲げ、兒童をして自動的に、これが答案を作らしむることとせり。
- 一、此に掲げたる諸問題の答案を作らしめて復習するには、一課の教授を終へたる後に於てするも、又は、教授の進行に伴ひて毎日其の答案を作りて復習せしむるも、そは教授者の便宜によるべきも、なるべくは教授の進行につれて毎日復習して其の答案を作らしめ一課の教授を終へて後に檢閲すること可ならん。
- 一、答案は必ず讀本を數回熟讀したる後に、これを作るの習慣を養ふ事に注意すべし。
- 一、本帳は主として家庭に於ける復習を目的として考案したれども學校に於て復習教授をなす際にも、これを使用し、問題の比較的困難なるものは、説明して、其の答案を作らしめ、これが批評訂正をなし、其の他の部分は、これを家庭の復習に譲るが如き教授者の工夫にて如何様にも有功にこれを使用せられんことを望む。

紅葉	歲	吐	今昔	拾	承	試	醫	色	或
	盡	落	賜	局	知	防	相談	暗	勇
	朱	助	篇	普	致	燃	勞	周圍	飲
	結	傳	思	預	讀	供給	如	保護	意
	構	幣	在	蓄	當	燈	寢	附	跡
	丹	丙	香	帳	終	吸	空	異	往
	唐	腐	競	收	退	呼	散	木	逃
	善	難	手	主	村	靜	注	裏	無
	建	交	選	別	防	煙	罪	惡	快
	築	換	各	悲	救	續	住	保	迎
	勝	省	是	詩	母	込	叛	警戒	發
	回	穀	並	到	減	堤	征	毒	徒
	賞	才	甲	片	異	果	定	法	結
	直	梅	乙	朝	押	更	厚	害	唯
	壯	袖	後	夕	高	連	怒	潔	辛
	併	永	轉	歌	價	非	威	清	笠
	遊	仰	添	涼	貯	常	薨	衣	黑

アル	イサム	イン	イ	アト	ユク	ノガレ	ナム	コ、ロ	ムカヘ	ホツ	ト	ムスブ	タ	シン	カサ	コク
イロク	クラン	シウ井	ホゴ	ツク	コトナ	モク	ウラ	ワルシ	タモツ	イカ	ドク	ハフ	ガイ	ケツ	セイ	イ
イ	サウダ	ラウ	シク	ネル	ナシク	チル	ウラ	ツミ	デウ	ソムク	セイ	サダ	アツ	イカル	イ	コウジ
ム、ロ	フセグ	モエ	キヨウ	トモシ	スフ	ヨコ	シツカ	ケムリ	ツク	コム	テイ	ハテ	サケ	レン	ヒ	ジヤウ
シヨウ	ハル	イタス	ヨム	タウ	オハリ	タイ	ムラン	フセグ	スクヒ	ハ	ゲン	コトナ	オシ	カウ	アカ	チヨ
シヨウ	キヨク	フ	アツケ	チク	チャウ	シウ	シユ	ベツ	カナシ	シ	イタル	カタ	アサ	ユフ	ウタ	リヤウ
コク	ル	タヤハ	オモシ	ザアル	ニホヒ	ケイ	シユ	カレ	ノ	コレ	ナラ	カフ	オツ	オクレ	コロ	ソヘ
ハク	オツ	タスケ	ル	ヘイ	ヘイ	クサル	カタシ	カウ	カハ	カハ	コク	サイ	ウメ	ソデ	ナガ	オホセ
アト	ウク	シユ	ムケツ	カマヘ	タン	カライ	ヨシ	タケ	チク	マサル	クワイ	シヤウ	チヨク	サウ	アハセ	アウ
モシ													チキ			

國語復習帳

尋常五學年 下

尋常小學讀本卷九

第十四課 駝駱乘

國民教育研究會



(一) 次の假名を漢字に直しなさい。

アルトキ。コ、ロイサム。ヨウイ。  
 アシアト。ワウライ。ノガレタ。  
 ヨ、ロヨク。テイシヤバマデチ、  
 タムカヒニイツタ。

(二) 次のことばの讀方とわけを書きなさい。

飲用水。無。

無事。出立。

發足。正午。

道連。同行。

(三) 次の文のわけをくわしく書きなさい。

(1) アリは飲用水其の外何くれと

用意して、隊商と共に出立し

たり。

(2) 晴れたる大空には無数の星が

がやけり。

(3) たがひに心もとなく思ひ合ひ

し父子の、今無事にて相見し

喜は如何なりしぞ。

(4) やがて親子打連れて、心樂し

く發走したり。

(四) 次のことばを用ひて、短い文を作りなさい。

(1) 何くれと。

(2) たとへんに

物なし。

(3) 空しく。

(4) 一方ならず。

(5) かたく。

(五) 次の文をまねて、文を一つづつ綴つてごらん下さい。

(1) 晴れたる大空には無数の星  
かゝやけり。

(2) 夜明くれば砂の上に新しき  
駱駝の足跡あり。

(六) 四十六頁のさしるを説明して下さい。

第十五課 かぶりもの

(一) 次の假名を漢字に直しなさい。

セイト。ヒモナムスブ。タダ。  
シンク。カサ。ダイコク。  
ムキワラバウハカルイ。

(二) 左の文のわけを書きなさい。

(1) 夏のきやうぎや麥わらは  
見るにもいと、輕げなり。  
(2) 所變れば様々に變るよそ  
はひ面白や。

(3) 頭に結ぶはち巻は次第々

及にすたれ行く。

(三) 讀本を二三回讀んでから、さしるにあるかぶり物の名を書きなさい。

五十頁

上のだん — (一)

(二)

(三)

下のだん — (一)

(二)

(三)

五十一頁

上のだん — (一)

(二)

(三)

(四)

下のだん — (一)

(二)

(三)

五十二・三頁

上のだん — (一)

(二)

(三)

(四)

下のだん — (一)

(二)

(四) 次のことばをつかつて短い文を作りなさい。

(1) いとや。

(2) うるはしく。

(3) かはいらし。

(4) たふとけれ。

(5) 亦多し。

(6) 次第々々。

(五) 次の漢字の讀方を知れるだけ書きなさい。

黒。發。

快。無。

空。往。

領。勇。

古。風。

發。物。

第十六課 動物の色

(一) 次のことばを下に寫して、其の讀方とわけを書きなさい。

- 體色。暗黒色。
- 體の一面。周
- 圍。北國。附
- 着。裏面。惡
- 味。惡臭。毒汁。

(二) 次の假名を漢字に直しなさい。

- リヨクシヨク。ダイコンバタタ
- ホゴシヨク。ケイカイシヨク。カ
- レハ。トツシユツ。ブキ。アンゼ

ン。コトナルイロ。

(三) 左のことばをつかつて短い文を作りなさい。

- (1) タヤスク。
- (2) シタガツテ。
- (3) ステニ。
- (4) 異ナラズ。
- (5) サナガラ。
- (6) 之二反シテ。
- (7) アザヤカ。
- (8) 警戒。
- (9) 保護。

(10) 周圍。

(11) 突出。

(12) 武器。

(四) 次の文の□の處に假名又は漢字を書入れなさい。

(1) 保護色ヲ有スル動物ハ敵ニオソ□ル、ウレ□少ク、我ヨリ敵ヲオソ□ニハ□ナリ

(2) 田ニスムカヘルハ土色□□□、木ノ葉ニヤドル雨ガヘルハ綠色□□□。

(3) □□ノ蝶ハ菜種ノ花ニムラガ□、□□ノ蝶ハ大根畠ニ集□。

(4) 保護色ノ變ズルハステニ面白キ□□ナリ。ソレヨリモ□□面白キハ、其ノ動物ノ身ブ  
リニヨリテ、形□□其ノ周圍ノ物ニ依ルモノアリ□□ナリ。

(五) 次の問の答を書きなさい。

(1) 動物の保護色とはごんなことか。



(2) 動物の警戒色とはどんなことか。

(六) 五十五頁と五十七頁のさし紙について説明しなさい。

第十七課 養生

(一) 次の漢字を十づつていねいに書きなさい。

裏。園。罪。寝。醬。潑。

(二) 次の假名を漢字に直しなさい。

ハウハフ。タバコノガイ。フケツ。セイケツ。  
イフク。イシヤ。サウダン。ハヤクネル。サ

ンボ。クウキ。チユウイ。ツミ。

三 次のことばのわけを書きなさい。

長生の方法。

養生法。

不潔。

清潔。

流通。

野外。

適度。

日光に浴す。

木立。

(四) 次のことわざはどんな事をしへたのですか。

(1) 病は口より入る。

(2) やはらかなるものも二十七度かめ。

(3) 我は天氣にも相談せず、毎日運動するが故に、醫者にも相談する必要なきなり。

(4) 過ぎたるは及ばざるが如し。

(5) 夜半十二時前一時間の眠は、十二時後二時間の眠にまさる。

(6) よく日光の見舞ふ家には醫者は見舞はず。

(五) とうずれば養生にかなふか。それを短いことばで書きなさい。

養生

第十八課 坂上田村麻呂

(一) 次のことばのわけを書きなさい。

東北の地。平定。	叛服常ならず。	功勞。恩威なら	び行はる。皇威	に服す。大功。	天皇の御信任。	皇城を守護す。
----------	---------	---------	---------	---------	---------	---------

(二) 次の假名を漢字に直しなさい。

ちゆうきよ。しまひ。そむく。

ぞくをせいす。あついほん。わらふ。いかる。おんい。

(三) 次を口語文に直しなさい。

(1) 征東將軍をつかはされた事がしばくであつた。

(2) 將軍田村麻呂が薨じた時は、天皇は深く之ををしみ給ひました。

(3) 將軍の怒時はたけき獸も恐れました。

(四) 次の文の空處に適當なことばを入れなさい。

(1) 眼の光は

鋭く、ひげは

こはく、力

強き人にて、怒

る時は

恐れたり。

(2) 將軍田村麻呂の東北の地を征する□、恩威

行はれて、向ふ所敵なく

敵も、遂に

皇威に服するに至れり。

(五) 次の語を用ひて短い文を作りなさい。

(1) あくまで。

(2) いつくしみ。

(3) さしものに。

(4) かばかり。

(5) 常ならず。

(6) 向ふ所敵なく。

第十九課 空氣

(一) 次の假名を漢文に直しなさい。

ソンザイ。フセグ。ココロミル。  
キヨウキフ。コキフ。トモシビ。  
チソフ。ダイドコロ。ヒフキダケ。  
モエル。クウキ。ウチハ。ツクエ。

(二) 次の文語を口語に直しなさい。

(1) 是我等の周圍に空氣あればなり。  
(2) 其のしるしは水にぬる、ことなかるべし。

(3) 若し空氣なからんには、人も鳥獸も草木も多くの生物は其の生を保つこと能はざるべし。  
(4) もみとしひなとをあふぎ分くるが如き皆然り。

(三) 次のことばを用ひて短い文を作りなさい。

- (1) 存在。
- (2) 供給。
- (3) 利用。
- (4) 皆然り。

(5) 若し。

(6) 却つて。

(四) 次の問に答へなさい。

(1) 我等の周圍に空氣のあることがどうしてわかるか。

(2) 人は空氣をどんなことに利用してゐるか。

(五) 次の語を用ひて短い文を作りなさい。

(1) もよほすかと

うれしい。

(2) うらめしい心

地がする。

(3) 春の雨はしめ

やかに降つて。

(4) そよそよと吹

く春風には。

(5) 一天にはかに

かき曇つて。



言 (さん)

言 (べん)

(三) 次の語のわけを書きなさい。

(1) 五風十雨。

(2) 紅白花は開

く煙雨の中。

(3) 一面銀世界

(4) 太平無事。

(5) のきの玉水。

(6) 吹きすさむ。

(7) 散り果てた。

第二十一課 水害見舞の文

(一) 次の語を下に寫して、其の讀方とわけを書きなさい。

連日。非常。

拜讀。終日。

立退き。大

半。堤防。

減退。異狀。

(二) 次の假名を漢字に直しなさい。

シシヤウ。シヨウチ。タウジ。

タウチ。ダイバウフウウ。ス

クヒ。ラウボ。ヒツエウシヨ

第二十一課 水害見舞の文



ル井。ソングイ。

(三) 次の語のわけを書け。

當村。貴村。

隣村。近村。

全村。全家。

全國。

不幸中の幸。

着のみ着の

ま。かく

別の異狀。

左程の損害。

(四) 次の文を手紙の文に直して書きなさい。

(1) 毎日くの大雨でしたから、大川に近

きあなたがたの處はごうであつたらう

と案じてゐました。

(2) 死傷も少くないのを知りまして驚い

てゐます。

(3) 御たくの皆さんが御無事で入らしやい

ますかごうでせうかと心配してゐます。

(4) 取急いで御見舞を申し上げます。

(5) 家内中がすべて無事でございますから

御安心して下さい。

- (6) 此分ならもう心配なことはなからうといふので立退いた人も引返した程でござりました。
- (7) びつくりして飛び出して見ました處が。
- (8) 救を求むる聲がやかましく聞えましたから。
- (9) 水はだん／＼ひいてまゐりました。
- (10) いくらか損害もありますけれども取急いで御禮を申上げるついでにお知らせして置きます。

第二十二課 貯金

(一) 次の假名を漢字に直しなさい。

いうびんきよく。いうびんちよきん。ちよきんだいし。いうびんきつて。ふつうのぎんかう。ちよちくぎんかう。あづけたか。よきん。かよひちやう。しふにふにふび。ひよう。つみたて。

(二) 次のことばを適當な熟語に直しなさい。

高い價。無くてはならぬ品物。  
心配のないしかた。元手のい  
くらか。元手のみんな。金を

ためること。金を預けること。

(三) 次の語をつかつて短い文を作りなさい。

(1) 如キコトナカ

ルベシ。

(2) コトヲ心ガク

ベシ。

(3) 事ニアラズ。

(4) タハシ。

(5) ヤヤ。

(6) 一部分。

(7) 全部。

(四) 次の問の答を書きなさい。

(1) 貯金をするのはどんなことか。

(2) 貯金をすればどんな利益があるか。

(3) 安全に貯金をするにはどうすればよいか。

(4) 貯金について心がけねばならぬことは何か。

第二十三課 菅原道真

(一) 次の假名を漢字に直しなさい。  
カナシム。イツベンノシ。ギヨイテタマ  
ハル。オンシノギヨイ、エキチヤウ。

(二) 左の語を下に書いて讀方の似名をつけなさい。  
主なしとて春を忘るな。庭の梅に  
別ををしむ。片時。雨の朝。詩歌。  
清涼殿の御宴。今昔の感。秋思の  
詩篇。毎日餘香を拜す。

(三) 次の歌と詩は道真が如何なる時によみしものか。

(1) 東風吹かばにはひおこせよ。

梅の花、主なしとて春を忘  
るな。

(2) 去年の今夜清涼に侍す。秋  
思の詩篇ひとりはらわたを  
たつ。恩賜の御衣なほこゝ  
に在り。さゝげ持ちて毎日  
餘香を拜す。

(四) 次の語を用ひて短い文を作りなさい。

(1) あまつさへ。

(2) したはしく。

(3) はるかに。

(五) 七十九頁のさしるを説明しなさい。

(六) 菅原道真のお話を短く書きなさい。

第二十四課 競馬

(一) 左の漢字を十づつていねいに書きなさい。

競。選。

構。騎。

轉。添。

傳。篇。

蓄。續。

靜。驛。

(三) 次の假名を漢字に直しなさい。

キシユ。エラブ。ゼヒ。ナラブ。

マチカマ。コロガル。オクレル。

ツキソヒニン。ミツチハク。ラク  
バ。アヒテチタスク。ツタハル。

(三) 次の語を用ひて短い文を綴りなさい。

(1) さぞ。

(2) おびたゞしい。

(3) やがて。

(4) 各。

(5) 名所。

(6) 口々。

(7) 今やおそしと。

(8) 鳴るが早いか。

(9) 一散。

(10) きもを冷して。

(四) 次の語のわけを書きなさい。

氏神。神事。

騎手。境内。

静々。名折。

馬場。氏子。

(五) 次の文のわけを書きなさい。

(1) 餘り甲乙はなかつた。

(2) 附添人も見物人もき

もを冷してかけよつ

て、熊吉に水を吐か

せるやら、醫者を呼

びに走るやら、上を

下へのさわぎである。

(3) 勝も勝、大勝であつた。

(4) 如何にも見上げたり

つばな行だ。

(5) 此の語が傳はつて、愛

作は五箇村はおろか、

近所近べんとほの者

となつた。

(六) 次の問の答を書きなさい。

愛作は競馬には勝たなかつたが、何故に五箇村の頭となり、近村のほめ者となつたか。

(七) 八十五頁のさしるの説明を書きなさい。

第二十五課 貨幣

(一) 次の語のわけを書きなさい。

有無相通じ。

交換。一定。

變動。現今。

(二) 次の假名を漢字に直しなさい。

クワヘイ。トリカヘ。カウクワン。

ヘイ。クサル。コクモツ。ハブク。

(三) 次の文語を口語に直しなさい。

(1) 有無相通ジタルニ過ギザリキ。

(2) 其ノ不便如何バカリナラン。

(3) 換へ難キニ至ルベシ。

(4) 産地異ナリトモ。

(5) 是金貨ニ代ル紙幣ノ行ハルル

ニヨル。

(6) 何時ニテモ金貨ト交換スルコ

トヲ得ベシ。

(四) 次の語を用ひて短い文を作りなさい。

(1) 過ギザリキ。

(2) 如何バカリ

ナラン。

(3) 談ゼザルヘ



カラズ。

(五) 次の問の答を書きなさい。

(1) 遠き昔に於ける賣買はどんなであつたか。

(2) 現今我が國の流通貨幣は何か。

(3) 貨幣の代用となるものは何か。

第二十六課 三才女

(一) 次の假名を漢字まじりに直せ。

いろかもふかきこうはいの。

そでひきとめて、おほえやま。

のちのよながかくもざらん。

さきいのみやのおほせごと。

花はちとせもちらざらん。

(二) 本課の歌を普通の文章の形に改めなさい。

(一)

(三)

(二)

(三)

次の偏へんのつく漢字を書きなさい。

才(んてへ)

木(んきへ)

イ(んべん)

イ(んべん)

第二十七課 日光山

(一) 左の文字を十つついていねいに書きなさい。

盡。築。

賞。仰。

歲。難。

腐。穀。

換。幣。

勢。變。

舞。數。

關。覽。

興。蒸。



紅葉。

(四) 次の文のわけを書きなさい。

(1) 岩にくたくる清流、雪と散り、玉と飛ぶ。

(2) 建築の善美を盡せる亦た似たり。

(3) 天然の美は更に人工の美よりも勝れり。

(4) 直下七十丈壯觀名狀すべからず。

(5) 日光の結構を賞せざるものなし。

(五) 左の語を入れて短い文を作りなさい。

(1) 美觀。

(2) 壯觀。

(3) 名狀すべからず。

(4) 如くはなし。

(5) 善美を盡す。

(6) 跡を絶たず。

(六) 次の事柄について知れることを書きなさい。

(1) 神橋

- (2) 五重塔
  - (3) 日暮門
  - (4) 家光の廟
  - (5) 中禪寺湖
  - (6) 華嚴瀧
  - (7) 世人は何
- 故日光を  
賞するか

(七) 九十四頁、九十五頁のさしるの説明を書きなさい。

尋常小學讀本卷九新出漢字一覽表

課	頁	漢字及其の讀方	備考
一四	自四四頁 至四九頁	或(アル)勇む(イサム)飲(イン)意(イ)跡(アト)往く (ユク)空し(ムナシ)逃れ(ノガレ)無(ム)快く(コ、ヨク)迎(ムカヘ)發(ホツ)	無、快
一五	自四九頁 至五三頁	徒(ト)結(ムスブ)唯(タツ)辛(シン)笠(カサ)黒(コク)色(シヨク)暗(アン)周圍(シウヰ)保護(ホゴ)附(フ)異なる(コトナル)木(コ)裏(リ)惡(アク)保つ(タモツ)警戒(ケイカイ)毒(ドク)	黒、色、暗、附、木、裏
一七	自五七頁 至六一頁	法(ハフ)害(ガイ)潔(ケツ)清(セイ)衣(イ)相談(サウダ)ン(勞(ラウ)如く(シク)寢(イネ)空(クウ)散(サン)注(チユウ)罪(ツミ)	清、相、如、空、散、注

一八	自六二頁 至六四頁	住(ヂユ)叛(ハン)征(セイ)定(テイ)厚(アツサ)怒(イカル)威(イ)薨(ゴウ)	叛、定
一九	自六四頁 至六六頁	在(ザイ)試(シ)み(コ、ロミ)防(フ)ぐ(フセグ)燃(モエ)え(モエ)供(キヨウ)給(キフ) (キヨウキフ)燈(トモシビ)吸(スフ)ふ(スフ)呼(コキウ)吸(コキウ)	供、給
二〇	自六六頁 至七〇頁	靜(シツカ)煙(エン)續(ツキ)込(コム)込(コム)堤(ツ、ミ)堤(ツ、ミ)果(ハテ)更(フケ)更(フケ)	煙、更
二一	自七〇頁 至七五頁	連(レン)非(ヒ)常(ジョウ)承(シヨウ)知(チ)致(イタシ)致(イタシ)讀(ドク)當(トウ)終(シユウ)退(ノク)退(ノク)村(ソン)堤(テイ)防(ボ)救(ヌク)直(タツ)母(ボ)減(ゲン)異(イ)押(オス)押(オス)	常、承、知、讀、終、退、村、堤、直、母、異
二三	自七五頁 至七八頁	貯(チヨ)高(カウ)價(カウ)貯(タク)貯(タク)預(アツケ)預(アツケ)拾(シユ)局(キヨク)普(フ)預(ヨ)蓄(チク)帳(チャウ)收(シウ)收(シウ)	高、價
二四	自七八頁 至八一頁	主(アルシ)別(ワカレ)別(ワカレ)悲(カナシム)悲(カナシム)詩(シ)到(シ)到(シ)	主、別、片、朝、夕、歌、涼、昔

二四	自八一頁 至八七頁	(イタル)片(カタ)朝(アシタ)夕(ユフベ)歌(カ)涼(リヤウ)賜(タマフ)昔(シヤク)篇(ヘン)思(シ)在(アリ)在(アリ)効(カウ)効(カウ)	在、思、費
二五	自八七頁 至九一頁	競(ケイ)手(シユ)選(エラフ)各(オノノ)是(ゼ)是(ゼ)並(ナラフ)構(カマヘ)甲(カウ)乙(カウ)後(オクレ)後(オクレ)轉(コロブ)添(ソヒ)吐(ハク)落(ラク)助(タスク)助(タスク)傳(ツタフ)傳(ツタフ)	轉、落
二六	自九二頁 至九三頁	換(カヘ)丙(ヘイ)腐(クサル)難(カタク)難(カタク)交(カウ)換(カウ)換(カウ)省(ハブク)穀(コク)穀(コク)	難、省
二七	自九三頁 至九六頁	木(サイ)梅(バイ)袖(ソデ)永(ナガク)永(ナガク)仰(アフセ)仰(アフセ)歲(トセ)歲(トセ)盡(ツク)朱(シユ)結(ケツ)構(ケツ)丹(タン)唐(カラ)唐(カラ)善(ゼン)建(ケン)勝(スグレ)勝(スグレ)回(クワイ)回(クワイ)賞(シヤウ)直(チヨク)壯(サウ)併(アハセ)併(アハセ)遊(イフ)遊(イフ)紅(モミヂ)紅(モミヂ)	梅、歲、結、構、善、建、勝、直、直、併、遊、紅、葉

484

明治四十四年十二月三日印刷  
明治四十四年十二月七日發行

(尋常五年前期下)  
國語復習帳(附)  
定價金六錢

著作者

國民教育研究會

代表者  
萬 福 直 清

發行兼  
印刷者

東京市日本橋區本銀町三丁目二番地  
株式會社啓成社

代表者 藤 國 次 郎

印刷所

東京市小石川區新諏訪町二番地  
明治製版印刷合資會社

發 賣 所

東京市日本橋區本  
銀町三丁目二番地

株式會社啓成社

振替口座東京一二〇五五  
電話本局二一〇〇〇

